

【指導上の留意点】

- 点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略などといった行書の特徴を理解させる。さらに、毛筆で行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解させる。

【指導のポイント】

「朝」の指導ポイント※左側の「阜（へん）」と右側の「月（つくり）」の高さのバランスと、横画の間の「空間（余白）」を均等にすることが最大の目標です。

【左側】一画目・二画目（上部の十）：一画目（横画）は右上がりに短く引きます。二画目（縦画）は一画目の中心からまっすぐ下ろして止めます。

三～六画目（中央の日）：課題にある「3つの白い丸印」に注目させます。中の横画を引く際、この3つの空間がすべて同じ広さ（等間隔）になるように意識して書きます。

七画目・八画目（下部の十）：七画目の横画は、左側（へん）の中で一番長く、右上がりにスッと引きます。八画目の縦画はまっすぐ下ろしてしっかり止めます。

【右側（月）】九画目（左はらい）：左側にぶつからないよう注意しながら、上からまっすぐ下ろし、途中から左下へスツとのびやかに払います。

十画目（横折れからはね）：九画目の始まりより少し高い位置から、右上がりですスタートします。一度しっかり筆を止めて斜めに打ち直し（折れ）、そこからまっすぐ下へ引きます。文字の中で一番下まで来たら、筆を一度ピタッと止め、左上に向かって力強くはねます。

十一・十二画目（中の横画）：ここでもお手本の「2つの白い丸印」を意識させます。細めの筆使いで、空間が等間隔になるように2本の横線を引きます。右側の縦画にはくっつけず、少し隙間を空けておくとスッキリします。

「風」の指導ポイント※外側の「風構え（かぜがまえ）」を大きくゆったりと広げ、その中に「虫」をバランスよく、少し小さめに収めるのが美しく書くコツです。

【風構え】一画目（左下への払い）：左斜め上からトンと打ち込みます。まっすぐではなく、ほんの少し外側にふくらむような気持ちで下へ向かい、最後は左下へ向かってスーッと筆を抜くように払います。

二画目（横折れから右下へのカーブ、はね）：この文字で一番見せ場となる画です。一画目と同じ高さから右上がりに進み、一度止まって斜めに打ち直します。そこから、右下へ向かって大きくゆったりとしたカーブを描きながら筆を下ろしていきます。一番下で筆をしっかり止め、お腹のほう（内側の左斜め上）に向かって、筆のバネを活かして力強く大きくはねます。

【中身（虫）】三～六画目（口）：風構えの中心より少し上の方に、やや平たい四角形を書きます。両側の縦画は、少し内側に向かって絞るように斜めに引きます。

七画目（縦画）：「口」の中心を突き抜けるように、まっすぐ下ろして止めます。あまり長くしすぎないのがポイントです。

八画目（横画からの持ち上げ）：左から右へ横に引き、最後はほんの少し右上に持ち上げるようにして止めます（または軽くはねるようにします）。

九画目（点）：空間の右下に、斜めに力強くトンと点を打ち、しっかり止めます。

学  
校  
名

氏

名

朝  
風

